

宮城県宗務所報

発行所

曹洞宗宮城県宗務所

仙台市泉区市名坂字檜町169-4

TEL 022(218)3801

FAX 022(218)3803

e-mail:sotou-miyagi@road.ocn.ne.jp

発行者 所長 三田村 道雄



(慈貞山 松窓寺)



ご挨拶

曹洞宗宮城県宗務所長

三田村 道雄

謹んで改歳のご挨拶を申し上げます、管内寺院関係各位の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。常日頃、コロナ感染予防に十分注意しながら布教教化活動に励まれていることに対し、衷心より深く敬意を表するものです。また、宗務所行政運営に際しましては、格別なるご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さらに、コロナウイルス感染症拡大中の折りには、宗務所内感染予防対策にご協力いただき、重ねてお礼申し上げます。

昨年四月頃より、新型コロナウイルスワクチン接種が行われ、接種拡大と共に、漸く光明が見え始めて来たかに思いましたが、今度はオミクロン株：終息が見えない状況であります。

宗務所行政推進につきまして、感染予防対策を十分に行い、リモートを駆使しつつ、会議・研修会等を展開している所であります。

教化関係におきましては、前年度は中止になりました檀信徒

本山研修会を日帰りの地方研究会に変えて実施いたしました。各教区役員二十七名の参加を得て、バス二台に分乗するなど感染防止に配慮し、奥州市水沢正法寺専門僧堂を拝登し、盛田堂頭老師のお話を拝聴、更には諸堂を拝観するなど大変有意義な研修会となりました。

梅花関係におきましても、県奉詠大会は開催することはできませんでしたが、検定会は実施させていただき、宗務所を会場として、各講毎の受験で開催(受験者一〇〇名)、また師範会のご協力もいただき、気仙沼市青龍寺様を会場に開催(受験者二五名)することもできました。

今後も事業展開におきましては、様々な方法を模索しつつ、職員一丸となって推進してまいりますので、何卒ご理解とご協力賜ります様お願い申し上げます。時節柄、皆様の法体堅固と山門興隆をお祈り申し上げます。

合掌

令和三年度 「宗務所護持会地方研修会」に参加して



宮城県宗務所護持会 会長 佐藤 出

稲刈りの終わった田んぼは渡り鳥が、遠くには雪化粧した栗駒山、
「冬となり」の季節を感じて
バスは一路奥の正法寺へ

去る十月二十五日(月)「宗務所護持会地方研修会」が開催されました。これはコロナ禍の中、昨年度に続き今年度も開催できない二泊三日の本山研修会に代わるものとして計画されたもので、水沢正法寺への日帰り研修という形で行われました。研修会には、県内各地より檀信徒二十七名、宗務所からは三田村所長様他二名、計四十名が参加、蜜を避けるためバス二台に分乗しての行程でした。

道中、車内ではCD映像を通して、南澤道人曹洞宗管長猥下

の告諭と、告諭に基づく令和三年度の教化方針を、拝聴致しました。その中で管長猥下は「私たちはコロナウイルスの全世界的な拡大、戦争・貧困・格差などの社会不安、近年頻発している自然災害に直面しております。そして私たちの社会ではさまざまな分断が現出しています。いまこそ一人ひとりが人と人との温かなつながり深めていかなければなりません。日々の生活の中で、仏さまに掌を合わせ、世界中の人びとが安らかに暮らせるよう祈り念じ、慈悲心あふれる行ないを進めてまいりましょう」と告諭されました。

また特派布教師の長野県蕃松院増田友厚住職による教化方針の説明では、東日本大震災支

援・福祉活動・檀信徒との交流を通して実践・体験した事実を基に、管長猥下の告諭が、判りやすく説かれました。

正法寺では盛田正孝老師の法話があり、老師からは栃木県満福寺当時の体験を踏まえ寺院と檀家との関係や檀信徒としての心構え等々について話され、私たちは大いに啓発を受けました。この度の研修会は参加されたみな様のご協力で滞りなく無事

終了することができましたことに衷心より感謝申し上げます。結びにコロナ感染が一刻も早く終息し、いつもの穏やかな生活に戻りますことを念じて筆を擱きます。

正法寺は一三四八年開山で曹洞宗第三の本山と言われていた時代もあり、道元禅師の厳しい禅の教えを守ってきた風格のある堂々とした佇まいが美しい。



宮城県宗務所檀信徒
岩手・正法寺研修

大槌岩手山 圓通 正法寺
令和3年10月25日

令和三年度現職研修会 報告

曹洞宗宮城県宗務所 教化主事 東 海 泰 典

本年度の研修会は新型コロナウイルス感染症状況を鑑み、リモート（Zoom）での開催とした。

「管長告諭と布教化方針について・コロナ禍の布教」と題して、曹洞宗特派布教師北海道法光寺住職佐野俊也老師にご講演頂いた。また、「仏祖正伝菩薩戒を学ぶⅢ・SDGsに学ぶ」を総合研究センター派遣講師愛知学院大学准教授菅原研州先生に講義（事前撮影の映像）を

頂いた。またコロナ禍の布教を
考え、「寺報の作り方」の学び
を深めるためにフリーカメラマ
ン 阿部和美氏をお迎えした。
宗務所二階研修道場にて配信。
直接会場にご参加頂いた方も含
め七十名の参加となった。
この様な状況となりリモート
を活用した会議や研修会も増え
てくると思われれます。寺院の通
信環境なども時代に合わせ整え
ていく必要があると思えます。



菅原研州先生



現職開講式



阿部和美氏



佐野俊也老師

他の宗教団体との諸問題



栗原市城國寺副住職 愛知学院大学准教授

菅原 研州

一、はじめに

令和三年度の現職研修会において、宗門と他の宗教団体、及び他の宗派・宗教における修行法との関係性についてお話しする機会を得ましたが、改めて二つほどの事例について基本的なところを確認したいと思います。

二、「世界平和統一家庭連合」の問題

そこで、今回問題として採り上げた他の宗教団体、あるいは活動などについて、具体的な名称を改めて挙げますと、世界平和統一家庭連合（旧・世界基督教統一神霊協会）が第一に挙がることです。韓国国内で一九五四年に文鮮明氏（一九二〇～二〇二二）によって開かれた同教団は、一九五〇年代には日本に入り、六〇年代には国内での宗教法人格を取得しています。また、七〇年代にかけては、各大学内に設置された「原理研究会」サークルで、余りに活動にのめり込んで退学した事例など

があり、社会問題となりました（後には、各地の大学で反対運動が起きています）。更に、大規模な「合同結婚式」で知られており、芸能人にも信者がいて、この式に関連してメディア上で大きな騒ぎになったこともあります。他には、靈感商法やマインドコントロールといった問題について、いち早く社会問題化したのも、同教団です。

そのため日本では、全国の弁護士が「全国靈感商法対策弁護士連絡会」を組織し、未だに靈感商法対策の啓発活動を続けています。一方、韓国国内では、日本ほどの献金の要請などがなく、結婚相手が見つからない時に紹介してくれる結婚相談所や、複数の企業を経営する財閥といったイメージであるとされます。

入会してしまう人の事例として、かつては教祖であった文氏が説いていた「統一原理」に影響を受けた場合が見られました。この「統一原理」

とは、人類全体を、墮落して原罪を有する状態であると独断しながら、「真のメシア（文氏とする）」が正しい結婚を勧め、正しい家庭を作れると導くものです。この結果が、先に挙げた「合同結婚式」になります。

しかし、霊的な次元での話を行うことにより靈感商法に繋がりがやすく、一方で、排除しにくいという問題にも展開します。もちろん、荒唐無稽な内容で信じるに値しません。しかし、人の不安などに上手く付けいるなどして、自分たちだけが不安を解消出来ると主張し、徐々に取り込んでいくのです。

現代では、靈感商法などが徹底して批判されますので、活動は表にそれほど出していない印象がありますが、インターネットの動画投稿サイトなどに、同教団で作った複数の動画が存在し、油断できません。また、広い世代に韓流ブームが受け入れられています。特に韓流メイクをしている女性を勧誘する事例なども発生しております。韓流ブーム自体は、異文化理解として大切ですが、それを悪用した勧誘活動は悪質です。

なお、同教団は一時期、大規模な宣伝活動を行ったため、寺院関係者や檀信徒で信者となった人も出ています。そして、家族の脱会などを目

指しながら、逆に取り込まれた場合もあると聞きます。脱会活動には専門家の所見や手助けも必要です。今回のお話しは注意喚起ですが、新たな被害者を出さないよう、ご注意ください。ただればと思います。

三、「マインドフルネス」の問題

「マインドフルネス」は、二〇〇〇年代から日本でも用語が認識されるようになりましたが、実際には一九八〇年代までに、アメリカのジョン・カバットジン氏（一九四四～）によって「ストレスを解消する瞑想法」として確立されました。なお、カバットジン氏の名著『マインドフルネス ストレス低減法（原題は『Full Catastrophe Living』）』（春木豊氏訳、北大路書房・二〇〇七年）は一九九〇年にアメリカで出版され、九三年に最初の邦訳（邦題『生命力がよみがえる瞑想健康法』）「ころ」からだの「リフレッシュ」実務教育出版）が出ています。

世間でも瞑想法などを生活に積極的に採り入れる人がおりますので、「マインドフルネス」は知られていますが、（宗門も含めて）日本に広がったのは、二〇一〇年代後半に、アメリカのGAFAMなどと称される巨大IT企業で、社員のストレス低減

のために採り入れたことが報道されたためです。

「マインドフルネス」という用語は、パリー語のサティ（念）を英訳したものです。サティ（念）とはいうまでもなく、八正道に「正念」として採り入れられて、具体的には「物事を心に留める」という、仏教では基本的な瞑想法となります。

なお、カバットジン氏は仏教での瞑想法と心理学的な方法を合わせつつ、プログラム化することで医療行為にまで高めています。「今」という時間を意識しながら、得た体験があるがままに受け入れることでストレスが低減されることを、科学的調査などの結果を加えながら説明しています。そのメソッドには、呼吸法や、心の動きの感じ取り方、ボディースキャンやヨーガ瞑想法などが含まれ、その都度目標が定めていますので、それこそロールプレイングゲームでキャラクターの能力が高まるような楽しさがあり、結果としてストレスが低減される効果が実感されれば、それも倍加するのかもしれない。

で、小見を申し上げたいと思います。まず、カバットジン氏は仏教の瞑想法、曹洞宗の坐禅法などを強く意識しています。先に挙げた『マインドフルネス ストレス低減法』の九三年の邦訳時に添えられた挨拶文では、「マインドフルネス」を仏陀の時代から行われてきた瞑想法とし、更に道元禅師の言葉を引用し、アメリカで活動した海外開教師の鈴木俊隆老師などにも言及しています。つまり、伝統を遡及しつつ、現代的なアレンジを加えたもの、という立場が「マインドフルネス」です。しかし、伝統を遡及するのであれば、当然に他の伝統との衝突もあり得ます。以下には、宗門の「正伝の仏法」の特徴を挙げつつ、違いを見ていきます。

① 不染汚の修証としての只管打坐

宗門の修証観は、「不染汚の修証」と呼ばれます。「不染汚」というと難しく聞こえますが、「染汚」とは分別心を指しますので、「不染汚」とは無分別のことです。『正法眼蔵』「坐禅儀」巻では「坐禅は習禅にはあらず、大安楽の法門なり、不染汚の修証なり」と示されます。習禅ではありませんが、何らかの優れた結果などを得るための修行ではないですし、修行と証悟の二つが区別されません。

しかも、大安楽の法門ですから、何ら欠けることのない功德を得られているわけです。

② 呼吸法について

宗門の坐禅法では、「鼻息通ずるに任せ、喘がず声ならず、長ならず短ならず、緩からず急がず」（『弁道法』）とある通り、余計なこだわりを手放した自然な呼吸です。また、道元禅師は数息観を否定されます（『永平広録』巻五―三九〇上堂）が、息の長さや数を数えることで、分別に繋がるためです。瑩山禅師は『坐禅用心記』で、心が整わないのならば「出入の息を数えよ」とされ、問題の具体的な解消法として数息観を採り入れられますが、普段の坐禅では行わないのです。

③ 心や意識の動きについて

両祖さまが示された坐禅法に共通することとして、調身・調息・調心という坐禅を行う時の順番があります。つまり、只管打坐への入門は坐相を調えることです。しかし、身体を重視し過ぎるわけではなく、身心一如ですから、心も自ずと調うわけです。身体と心を分別して、その各々を観察するマインドフルネスでは、統合にも手順が必要で、余りに遠回りでもありません。つまり、両祖さまの御教示を拝し

て自らの実践へと繋げれば、マインドフルネスでの達成目標は迂遠だと理解出来るのです。

④ 「仏祖の法」としての坐禅

道元禅師は、「坐禅は、三界の法にあらず、仏祖の法なり」（『正法眼蔵』「道心」巻）とされますが、マインドフルネスは「三界の法」でしかなく、仏祖の法とはそもそもその位置付けが異なります。しかし、坐禅を教化に用いたい方は、三界の法こそが利用しやすいと考えるかもしれません。ただし、それは「仏祖の法」なのでしようか。

四、結論

他の宗教や宗門以外の実践法に心を奪われる理由の一番は、宗門のことも、他のことも、良く理解されていないためです。例えば、旧・統一教会の「統一原理」は、少し考えれば本来の新旧両『聖書』にも依存しない独断的な教えだと分かります。

宗門伝統の「只管打坐」とマインドフルネスも明らかに異なり、両祖さまの教えに親しんでいけば、マインドフルネスを導入する理由は出て来ません。

つまり、これらの問題は、一仏両祖の教えと実践を学ぶ機会を得ることと解消されるはずなのです。

SDGsの理念を自然の森へ



輪王寺住職

(一社) 森の防潮堤協会理事長

日置道隆

二〇二一年六月十二日から十九日の八日間、岩沼市藤曾根公園五号丘北側にて「千年希望の丘ファイナル植樹祭」が行われました。本年は、コロナショックの煽りを受け、例年であれば一日で大勢の参加者によってすべて植えきるところを、密を避けるため、八日間に参加者を分散して二十五種類九千本のふるさとの木々を植えるという異例の植樹活動でした。のべ約五五〇人が参集し、すべてを植え終えました。「千年希望の丘植樹祭」は二〇一三年から始まり毎年催され、総本数約三十八万本の木々を全長十kmに渡る岩沼市の海岸線に植えることができました。この活動を支えてくれた多くの皆様に、心より感謝申し上げます。

私は、輪王寺の住職を務めながら、震災後(一社) 森の防潮堤協会を立ち上げ運営してきました。2002年頃でしょうか、仙台市は輪王寺山門から本堂まで百メートルある参道地下を横切るトンネル工事のため、杉並木四五〇本を伐採する決定をしました。伐採地の森を再生するため、森に関する本を読みあさった私は、生態学的知見による森づくりに興味を持ちました。そして、二〇〇四年から宮脇昭先生に指導をお願いし、輪王寺内で「ふるさとの木によるふるさとの森づくり」活

動を六年間行ってきました。境内に植えられた約六十五種類の土地本来の木々は三万二千本を数え、今現在自然林に近い多様性ある森へと生長しつつあります。各地で植樹活動や啓蒙運動を繰り広げていた最中、悲劇が起きました。

二〇一一年三月十一日、忘れもしない東日本大震災です。巨大津波が発生し、多くの尊い生命が失われました。同年四月初旬に宮脇先生から電話をいただき、早速四月七日津波被災地を訪れ、生態学的知見による調査を始めました(どのような木々が生き残り、どのような木々が津波によって流されたか等)。私も同行しましたが、凄惨な津波被災地に心を痛め、海岸線に多く植えられていたマツ林は無残にもなぎ倒されていました。海岸線を舐めるように調査しましたが、南三陸町の荒島真向かいにある斜面で、宮脇先生はタブノキ林を見つけたのです。巨大津波に襲われ大きな傷を負いながらも敢然と耐え抜いたタブノキ林、その光景は今でも思い出されます。その



宮脇昭先生

時、私自身が多様性のある自然の森こそが自然の猛威にも耐えられることを実感し、潜在自然植生理論に基づいた森づくりこそが、私たちの生命と財産と心を守ってくれると確信したのです。

宮脇先生は常々、「本物の森は、高い木、中ぐらいの木、低い木が多層群落を形成し、お互いにつながり競争しながらも共に生きている。多様性こそが自然の一番強い状態であり、そのような森こそが丈夫で長持ちする」と口癖のようにおっしゃっていました。森自体が生命の塊であり、管理つまり人の手を加えずとも、森全体で絶妙なバランスを保ちながら地上部と地下が共助し、自ずと生命が循環し永年存続します。そして、あらゆる災害にも耐えることができるのが土地本来の多様性ある森なのです。

宮脇先生は、被災地調査後すぐに「森の防潮堤」構想を提案されました。被災瓦礫を埋めてマウンドを造成し、地元の海岸に適したいろいろな種類の木々を植樹することにより多層群落の森を形成し、私たちの生命と財産と心を守ろうという構想で



岩沼市下野郷にて植樹 2013年6月9日



木々が生長し森の防潮堤になりつつあります 2020年6月

す。東日本大震災から十年を経て、森の防潮堤が「千年希望の丘」として完成したことは、宮脇先生から未来への大きなプレゼントです。岩沼市で実践された「森の防潮堤」構想は、自然を活かした防災減災という新たな選択肢を、次世代に残してくれました。近年SDGsが国連で採択され、持続可能社会がクローズアップされています。「ふるさとの木々によるふるさとの森づくり」は地味だけれども一番確実な対処法なのです。提唱者の宮脇昭先生は本年七月十六日ご逝去なされましたが、彼の魂は、「ふるさとの森づくり運動」として生き続けるでしょう。

SDGsに思う〜フードバンクの活動〜



宮城県曹洞宗青年会 会長

大慈寺住職 高橋 信弘

近年様々なメディアにおいて「SDGs」(持続可能な開発目標)という言葉を見聞きする事が増えました。

宮曹青でも今期より新たな試みとして、富谷市に拠点を構える特定非営利活動法人「ふーどばんく東北AGAIN」様への協力を考え、支援の形を検討しているところでございます。

いま、宗門においてもSDGsを推奨しており、そして当会の今期スローガン実現の方法を考えておりましたところ、宗務所様より同団体のご紹介もあり支援の検討を始めた次第でございます。

初めに同団体の概要をご紹介致しますと、関連団体中東北では一番歴史があり、食料支援の他にも、子供食堂の開催や県内・隣県の子供食堂を主催する他団体への物資提供を行うなどのハブ的役割も果たしております。SDGs17の目標のうち同団体が掲げる活動理念は

1. 貧困をなくそう
 2. 飢餓をゼロに
 3. すべての人に健康と福祉を
 4. 質の高い教育をみんなに
 11. 住み続けられるまちづくり
 12. つくる責任 つかう責任
- の六項目であります。



次に同団体の方にかがった話として、支援を必要とする方は年々増加傾向にありますが、新型コロナウイルスの感染拡大が長く続き、結果生活に困窮し支援を必要とする方が急増したことであります。その実情は大変なことであります。で、これまで役員を中心に数回食料品をお届け致しました。食料品の他にも子供用として鉛筆や消しゴムなどの文房具をお届けしたところ大変喜んでいただきました。

このような内容は当会の広報やHPなどでも掲載しておりますが、会員内にもまだ周知しきれておりませんから、初年度は研修会を設け、広く理解を深めていただくことに重きを置いております。また、既に数ヶ寺の県内各寺

院様や教区寺族会様におかれましては支援を実施しているところもございまして、相互の協力をも視野に入れております。

会として支援を考えますところは、宗門が推奨するSDGsに加え以前よりのスローガン『人権・平和・環境』の問題にも通すること、また昨今は、新たな生活様式を求められ、これまでの日常が急速に変化していることに関係しております。寺院を取り巻く環境も同様で、これまでの様にお寺に人が集まることが難しくなりました。

寺檀和合を図っていても、宗教離れや寺離れなどの言葉を見聞きする事があり、そのような言葉を見聞きする度、忸怩たる思いをしております。それでも青年会活動にて、檀信徒の方々に接すること、我々に強く期待され求められていることは『安心』ではないかと感じてまいりました。その為四摂法の実践を強く考えこの度のフードバンク・子供食堂への支援と結びつくこととなりました。

僭越ながら申し上げますと、八正道の実践における自己の修行が確立もしないまま利他行を行じられるのかとお叱りもあるかと存じますが、お許しを冀うものであります。

現代のフードバンクや子供食堂のような活動は、以前は個々の御寺院様でも同じような役割を果たしてきたことと思えますし、現在でも活動しておられる御寺院様もあると聞いております。しかしながら、現状では思いはあっても個々で実施する難しさがあられる御寺院様で主催されている数はけっして多くありません。

日頃多くの方々に支えられている私達も地域や社会の一員であることを自覚し、感謝を忘れず利他の誓願を無くしてはならないと考えます。そしてこれらの思いは、これまでの青年会活動の中で諸先輩老宗師方より学んだことでもあります。SDGsは今世界で掲げる目標であり、また多様な考えや社会を理解することの大切さも踏まえ、当会では今期スローガン「四無量心」一慈・悲・喜・捨を行ずるーと定めるに至っております。

私共青年僧が何の見返りも求めず、未熟ながらも行ずる中に、お寺やお坊さんをより身近に感じていただき、誰かのためになっているのであればそれでよい、との一念であります。今後も更なる精進を重ねてまいりますので、県内御寺院様には何卒これまでと同様のご指導ご協力賜りますようお願い申し上げます。

ふーどばんく「東北あがいん」に関する 研修会予定

令和四年二月七日午後一時三十分開講式
二時より講演

【場所】 二十一教区 洞雲寺 様

【内容】 ふーどばんくの現状や活動状況の紹介等

【講師】 「ふーどばんく東北あがいん」より

※状況によりオンラインとなりませう。
詳細は宮曹青事務局へお問合せください。

令和三年度 東北管区 人権啓発研修会報告

曹洞宗宮城県宗務所 人権擁護推進主事 白石 惇 祐



令和三年十一月八日に福島グリーンパレスに於いて昨年度延期になった東北管区人権啓発研修会が開催された。管区長、人権本部、教化センター統監より挨拶後、フリーアナウンサー大和田新氏より「伝えられることの大切さ・伝わる事のすばらしさ」の演題で東日本大震災後の福島

の状況と、現状について講演があり、被災者の声や、避難者の現状について講演があった。続いてシャンティ国際ボランティア会地球市民事業課長市川齊氏より「シャンティと歩んだ三十年。現場から見た市民社会の危機そして今後に向けて」と題してポランティア

令和3年2021年11月8日（月）講習内容

- 講習1（60分）
「伝えることの大切さ・伝わることのすばらしさ」
講師 フリーアナウンサー おおわだ 大和田 あらた 新 氏
- 講習2（90分）
「シャンティと歩んだ30年。現場から見た市民社会の危機そして今後に向けて」
講師 シャンティ国際ボランティア会地球市民事業課長 いちがわ 市川 ひとし 齊 氏

翌九日にはバスで富岡へ移動、廃炉資料館見学後、福島第一原発の視察、現在の状況、廃炉に向けての予定等を研修し福島駅に戻って散会となった。各県人権主事とも二年ぶりの再会であり、初日の夜には人権本部との分散会も開催され、お互い意見交換と意思疎通が図られた研修会であった。

令和3年11月9日（火） 福島第一原子力発電所ご視察スケジュール

時間	内容	時間	内容
9:30	廃炉資料館 到着 [ご視察者手配のお車]		福島第一原子力発電所 機内視察 (降車あり)
9:30~10:20 (50分)	ご挨拶、ご本人確認、概要・ルート・入構案内等ご説明 ◆廃炉資料館案内（20分程度） ・シアター上映含む ◆配付資料 ・視察ルート図 ・福島第一原子力発電所の現状と今後の対応について ・1F、2F概要と津波被害状況 ◆上映ビデオ ・福島第一原子力発電所は今【9分】 ※出発前お手洗いが案内	11:00~12:00 (60分)	①既設 多核種除去設備（既設ALPS） ②増設 多核種除去設備（既設ALPS） ③1~4号機原子炉建屋外観俯瞰工リア 【降車】 ④地下水バイパス設備 ⑤サブドレン浄化設備 ⑥海側設備 ⑦6号機 非常用ディーゼル発電機 ⑧雑固体廃棄物焼却設備 ⑨固体廃棄物貯蔵庫（第9棟） ⑩乾式キャスク仮保管設備 ⑪免震重要棟 ⑫高性能 多核種除去設備（高性能ALPS）
10:20~10:20 (20分)	[バス移動] 廃炉資料館～入退域管理棟前	12:00~12:10 (10分)	身体スクリーニング、 個人線量計の返却
10:40~10:50 (10分)	一時立入許可証の貸与 [徒歩移動含む]	12:10~12:15 (5分)	一時立入許可証の返却 [徒歩移動を含む]
10:50~11:00 (10分)	個人線量計の貸与	12:15~12:35 (20分)	[バス移動] 入退域管理棟前 ~ 廃炉資料館
		12:35~12:50 (15分)	アンケート 質疑応答 ご帰着準備
		12:50~13:20 (30分)	昼食
		13:20	廃炉資料館 出発

《教化指導員の活動について》



二十一教区

満興寺 副住職 時 泰 広



教化指導員は前回の報告後にも演劇公演を行いました。令和三年七月二十六日に登米市中田町KOMOREBIRKID'S CLUBで行いました。対象は小学二年生～六年生までの子供五十一名、大人八名でした。とても元気な子どもたちばかりで、演劇中も「そっちにいつちゃダメ!」「危ないから逃げて!」とリアクションがあり、演者たちも楽しく演技を行うことができました。演劇が終わった後には子どもたちからの質問コーナーを設けていただき、普段から疑問に思っていることや友達との仲よく続けられる方法など様々な質問がありました。もちろんコロナウイルス感染予防を万全に行ったうえで、子どもたちにもマスクを着用いただき開催致しました。今回の演劇は夏休み中の学童保育のオリエンテーションとしてお呼びいただきました。学年関係なく仲良い子ども



もたちでしたが、その中でも上の学年の子が下の学年の子に優しく接していたことが印象的でした。今後このコロナ禍でも優しさや友情を大事に育んでほしいと思われました。八月十七日にはコロナウイルス感染対策を徹底しながら演劇練習を行いました。中々練習もできない状況でありましたが、演技や音響などの詳細部分の確認をしました。また、演技中の動画を撮影し、コロナウイルス蔓延などで集まることができない状況でも演目が確認できるように致しました。今後もコロナウイルスの感染状況を確認しながらできる範囲で演劇活動を行っていきたくと考えております。どうぞよろしくお願致します。以上ご報告でございました。

第二教区

鳳寿寺 住職 鈴木 俊龍

「仏心のひとしづく」

横田南嶺 著
発行/春秋社

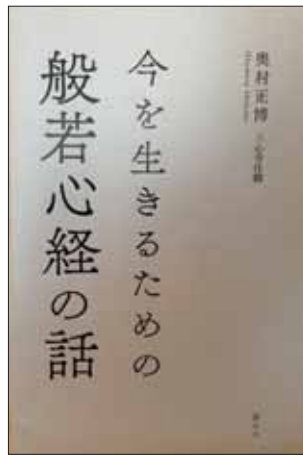


第四教区

圓満寺 住職 舘寺 規弘

「今を生きるための
般若心経の話」

奥村正博 著
発行/港の人



円覚寺管長横田南嶺老師の「日曜説教」をまとめた本書は、「読む」というよりは「聞く」という感覚で読み進めることができる本です。優しく丁寧に命のいとおしさとつよさを切々と語り、二度と戻らない今日という日をどう願いどう生きるかを温かく説くやわらかな陽の光のような言葉は、決して簡単ではない人生の前向きな一歩を踏み出す力を引き出してくれます。そして、この本を読み終えたときには、日曜説教を聞きに円覚寺に行きたいな、と強く思いました。

本書は、現代を生きる稀代の坐禅行者であり眼蔵家である著者が、異教間交流で行った般若心経の講義の記録と、著者自らの希有な半生を綴った自伝を一つにまとめたものです。心経の講義録は、我々僧侶にとっては、話す側と聞く側の両方の立場から読み進めることの出来る内容となっています。

また、沢木興道老師の高弟である内山興正老師の法嗣でもある著者の、如何にして禅の道を歩んで来たのかという姿を見聞することが出来ます。本書を読むことで、同じ現代を生きる僧侶の我々の、布教と修行への向き合い方の一助となれば素晴らしいことである思います。

宗務所情報

防犯カメラ増設



エアドック導入



「精進料理」

栗の渋皮煮

岩手県 正法寺 典座 高橋 哲行

【材 料】

- ・ 栗 適量
- ・ 砂糖 栗の重さの半分



【作り方】

- 1 栗を湯で沸騰させないように 20 分茹でます。
- 2 栗をぬるま湯にとり渋皮を 残しながら擦ります。



- 3 綺麗になるまで 1 と 2 を煮る時間を 10 分程度にして 2 ～ 3 回繰り返します。

- 4 鍋に湯を張り分量の半分の砂糖を溶かし栗を煮ます。

- 5 沸騰したら残りの砂糖を入れて弱火で 20 分程度煮れば完成です。



※ 1 では重曹を入れると綺麗になります。

※ 栗は茹でずにお湯に入れておいても綺麗になります。

※ 栗が沢山ある場合は、渋皮の状態でも冷凍保存できます。

第二十教区

松窓寺沿革



慈貞山 松窓寺住職 森 孝史

表紙写真説明

慈貞山松窓寺は遠田郡涌谷町龍淵寺の末寺で、開山は龍淵寺二世閑室齡磨大和尚である。安永の「風土記」等の記録を欠いている事、明治九年の大火で焼失したことから詳細な沿革は不明である。弘治三年に山岡志摩の旧在所伊具郡金津村（丸森町）に建立されたが、志摩の在所替えに伴い慶長一四年に岩出山に移転した。志摩は岩出山伊達家初代宗泰の時、城代家老として岩出山に居住した。志摩没後の山岡家は一時子孫が絶えて家名は断絶したが、後に再興され宮城郡手樽（松島町）に知行地を拝領した。松窓寺の名は志摩の祖母「松窓慈貞大禅女尼」に由来し、山岡志摩開基である。境内には五輪塔と山岡志摩の墓と碑がある。碑文には「寛文四年三月

一九日天窓清寒禅定門 施主敬白
世名 山岡惣右衛門重長」とあり、志摩の死後しばらくして山岡の家を継いだ子孫が、志摩の供養の為に建立した。松窓寺は宗泰の代より二貫六〇〇文（二五石）の知行を寄進された。寺地に伊達家代々の墓が築かれ、かつては初代宗泰、二代宗敏の御霊屋が建立されていたが、明治九年の大火により御霊屋も松窓寺の堂宇も焼失してしまった。境内には観音堂があり、本尊は子安観音である。その由来は、天明二年に岩出山村の清水儀蔵が自家内に建立したものを、同五年、當寺一九世五鳳素雲和尚が境内に移転した。この観音堂、秋葉山堂も火災を免れて現存している。

新命住職

第二教区 32番

永昌寺 大槻 芳道 師 R 3・3・4

第十教区 264番

玄松院 三浦 正恵 師 R 3・9・1

第十三教区 312番

吉祥寺 奥田 典登 師 R 3・9・1

第二教区 17番

大連寺 桑原 賢龍 師 R 3・12・1

第十三教区 315番

溪秀院 石山 宗彦 師 R 3・12・1

結制修行

(一層の弁道精進を祈ります)

第一教区 75番

(令和3 冬・前・初会)

法幢師 加藤 正禪 師

首座 河野 覚然 兄

第二教区 48番

(令和3 冬・前・初会)

法幢師 清野 卓有 師

首座 清野 有賀 兄

第四教区 80番

(令和3 冬・前・再会)

法幢師 三宅 俊乗 師

首座 三宅 泰玄 兄

第四教区 111番

(令和3 冬・前・初会)

法幢師 氏家 隆文 師

首座 清水 玄道 兄

第七教区 168番

(令和3 冬・前・初会)

法幢師 坪内 俊明 師

首座 坪内 一誠 兄

第十教区 267番

(令和3 冬・前・初会)

法幢師 北川 恵得 師

首座 北川 昌征 兄

第十六教区 399番

(令和3 冬・前・初会)

法幢師 菊地 芳道 師

首座 菊地 志門 兄

第十七教区 441番

(令和3 冬・前・初会)

法幢師 菅原 弘智 師

首座 佐々木隆晴 兄

第十九教区 158番

(令和3 冬・前・初会)

法幢師 石龍 義道 師

首座 山浦 慧潤 兄

第二教区 34番

(令和3 冬・中・初会)

法幢師 我妻 俊道 師

首座 菅野 友道 兄

遷化

(謹んで弔意を表します)

第九教区 248番

桃源院東堂 奥野 泰彦 師 R 3・1・19

第九教区 393番

第十五教区 辻 文生 師 R 3・8・25

徳性寺住職 徳性寺住職 辻 文生 師 R 3・8・25

第十八教区 460番

黄金寺東堂 最上 瑞龍 師 R 3・9・24

第八教区 189番

往生寺住職 今野 良隆 師 R 3・10・27

第三教区 46番

宝船寺東堂 徳野 良徹 師 R 3・10・31

第六教区 149番

喜松院住職 村上 淑郎 師 R 3・12・18

喜松院住職 村上 淑郎 師 R 3・12・18

逝去

(謹んで弔意を表します)

第六教区 149番

喜松院寺族 村上てつ子様 R 3・6・24

第九教区 236番

廣禪寺寺族 内藤チエ子様 R 3・8・20

第九教区 248番

桃源院寺族 奥野嘉代子様 R 3・9・19

※宗務所申請済の情報を掲載

編集後記

布教師協議会主催布教実践講習会がzoomにて開催された。講師は勝桂子氏による「イエなき時代のお寺の使命」。冒頭にコロナ禍で実施される曹洞宗さんは素晴らしいとお言葉。今年もwithコロナで出来る事を模索しながら行事を遂行して参ります。(T記)

宗務所長名の檀信徒用感謝状弔辞を準備しております。お問い合わせください。